

<金標準先物、7月の高値 6479 円を超える可能性が高い・・・>



(出所：オアシス)

オンライン形式で行われた FRB 年次シンポジウムでパウエル FRB 議長は、7月の FOMC で「経済がおおむね予想通り進展した場合には年内に資産購入ペースの減速を開始するのが適切となり得る、というのが私の見解であり、大半の参加者も同様の認識だった」と説明したが、金利については「見込まれる資産購入縮小のタイミングとペースは、利上げ開始時期に関する直接的なシグナルを送ることを意図するわけではない」と発言するなど、金利引き上げは急がない事を指摘している。そのため市場にはハト派の内容と受け捉えたりリスクの買い戻しが強まる中でドル安：金利低下を受け金標準先物も 7月の雇用統計で下落した水準である 6400 円を超えて 6416 円まで上昇している。

特にパウエル FRB 議長のハト派の講演内容を受けて、週末の雇用統計に向けて買い戻しの動きが強くなる事が予想されるため、7月の高値 6479 円に向けて戻りを強めて来ると予想される。

(2021 年 8 月 29 日記載)

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では MACD とシグナルが上昇し、MACD とシグナルの乖離を示すヒストグラムでも拡大しており、強気を維持した相場が予想される。また RCI では短期が+73%で維持しながら、長期が上昇するなど、強気に継続を示すサインである。また移動平均線でも 40 日移動平均線が位置する 6353 円を日足が超えるなど、基調を強めた動きを示しており、7月の高値 6479 円を超える可能性は高まっていると予想される。